

● 親子見学会 ●

日本道路公団 第2名神高速道路
栗東トンネル工事 &
水のめぐみ館 アクア琵琶

夏休みの一日、トンネル工事の現場を見学いただき、土木事業の大切さを学んでいただきました。

当協会関西支部では、8月1日、小学生とその保護者を対象とした4回目の「親子見学会」を開催しました。将来を担う子供たちに建設中の現場を実際に見ていただき、親子のふれあいを通して土木技術の素晴らしさや土木事業の大切さを体験するとともに、自然とのかかわりを学んでもらうことが目的で、広報委員会スタッフにより企画・運営されています。

今回は、日本道路公団が整備中の第2名神高速道路栗東トンネルの工事現場に加え、近畿地方整備局と水資源開発公団の琵琶湖について学習できる施設「アクア琵琶」を見学しました。

実施にあたっては、各新聞社のご協力を得て、新聞とインターネットでの募集による140組以上の中から、抽選で41組85名の親子にご参加いただきました。子供たちは土木工事のスケールの大きさに驚きつつ、夏休みの野外学習のひとつを大いに楽しんでいました。



坑口から望む巨大橋脚

迫力満点のトンネル工事現場
巨大な重機のデモ操作に驚きの声

見学会当日、JR新大阪駅とJR瀬田駅に集合し、貸切バス4台を連ねて、まずは工事が進む滋賀県栗東市の第2名神高速道路栗東トンネルを見学。すでに貫通した坑口から望む高さ70mもの橋脚の作業状況とともに、壮大な景色が一望できました。

プレゼンテーションルームでは、日本道路公団大津工事事務所の方々の歓迎を受け、工事長から栗東トンネルの概要について説明がありました。その後、ビデオによるNATM（ニュー・オーストリアン・トンネリング・メソッド）の掘削の様子が放映され、ダイナマイト用の穴をあけたり、ロックボルトを埋め込んだりする作業工程を大変分かりやすく知ることができました。

さらに、西側の掘削現場へバスで移動。現場はTBM（トンネル・ボーリング・マシン）による先進導坑が2001年6月に貫通しており、現在はNATMで拡幅工事が行なわれています。子供たちは、発破後のゴツゴツした荒々しい壁面にコンクリートが吹き付けられ、たちまち固まってしまう様子を実際目で追っていました。また、ドリルジャンボのデモ操作では、約2mの至近距離で巨大な機械が動くと、驚きの声が上がりました。子供たちには、日本道路公団大津工事事務所から貫通した時の花コウ岩がプレゼントされました。

当トンネルは、180平方mの超大断面トンネルで、仕上りの幅15m、高さ8.5m、片側3車線。名神高速道路のトンネルに比べると、幅員、断面ともに約2倍の規模です。全長3.8kmを3工区に分けて工事が進行中です。



プレゼンルームで概要説明



アクア琵琶

琵琶湖の不思議を楽しみながら勉強

次に、移動した昼食会場では、当協会関西支部の畑山広報副委員長から「橋や道路、トンネルなどの土木工事現場でどんな人が、どんな気持ちで働いているのか知ってもらいたくて行っています。土木のスケールの大きさ、大切さを感じてもらえれば」とあいさつがありました。

昼食後、瀬田川洗堰の近くにある水のめぐみ館「アクア琵琶」を見学。館内では、琵琶湖の水の利用や管理、総合開発事業などをパネルや模型、映像を用いて詳しく解説しており、子供たちはゲーム感覚で楽しんでいました。映像ホールでは、200インチの3面スクリーンに映し出される水質調査船で琵琶湖を一周するというクイズに挑戦し、大いに盛り上がっていました。



アクア琵琶館内

今回、参加した子供たちは「大きな機械が動くすごい迫力があつた」、「おも・こわ（面白くて、恐かった）」、「夏休みの宿題できた!」などと、うれしそうに感想を述べていました。

後日、事務局へ子供たちから30通以上の見学アンケートも送られてきましたが、誰もが異口同音に、今まで見たことのない機械に驚き、壮大な自然とのかかわりを見聞し大変感動したことが綴られていました。

今回も事故なく見学会を終了できましたことを報告いたします。また、見学会実施にあたってお世話になった、日本道路公団大津工事事務所の向井工事長、鴻池・日産・佐田JVの村上所長、鹿島・日本国土・大日本JVの福岡所長をはじめ、関係各位のご支援、ご協力に深く感謝いたします。



片側3車線の超大断面トンネル